

第5章

庄内地域の 景観まちづくり の現状と課題

1. これまでの取り組み



○農林業を基幹産業として発展

- ・地域の9割を自然と農地に囲まれた庄内地域は、米・ナシ・畜産・椎茸等を中心とした農林業を基幹産業として発展してきました。
- ・しかし、農業の経営環境の悪化により、高齢化の進展や後継者不足が生じており、年々農業就業者も減少しています。

○大分市や挟間地域の商圈の拡大

- ・商業はJR庄内駅、天神山駅、小野屋駅周辺に商店街が形成されています。近年は、国道210号沿いに商業施設が立地しています。
- ・しかし、車社会の進展や交通網の整備により、大分市や挟間地域の商業施設の利用が拡大しており、地元での購買は減少しています。
- ・就業者も庄内地域外で働く人が増えています。

○沿道での花いっぱい運動

- ・庄内地域では、街のにぎわいの創出や環境緑化を推進するため、沿道にコスモスを育てる「花いっぱい運動」を行っています。

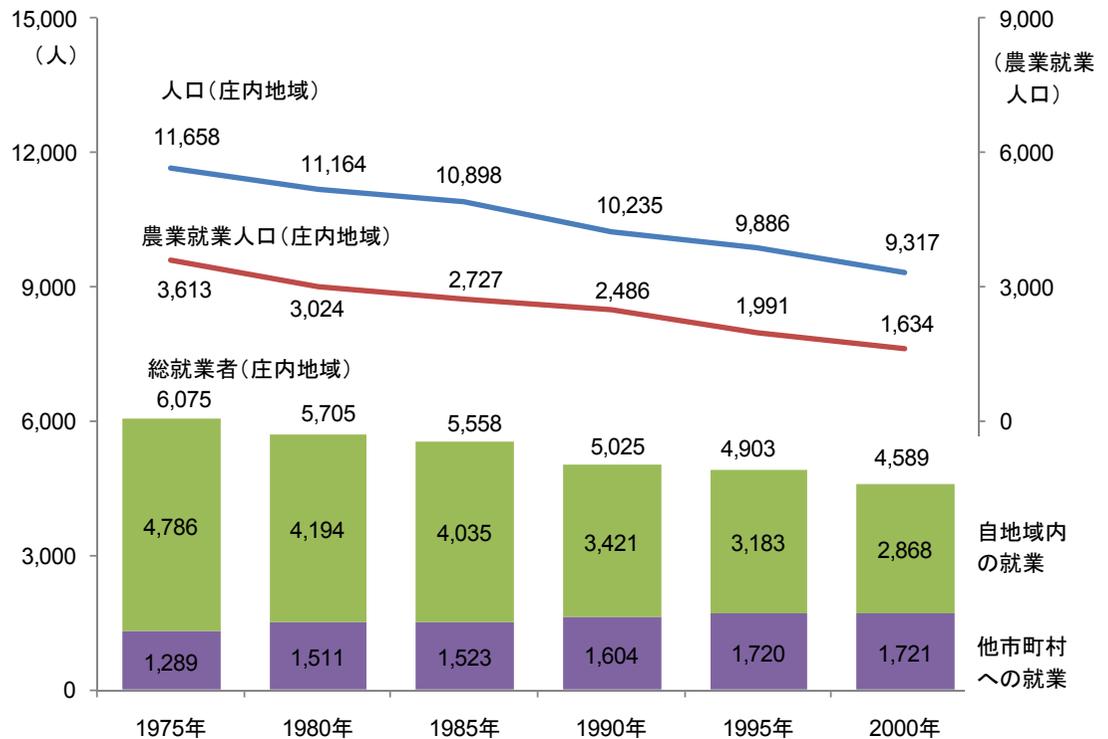
○環境保全条例の取り組み

- ・庄内地域では、住民の快適な生活環境を守るため、開発事業などによる大気汚染、水質汚染、騒音などの公害や廃棄物の不法投棄による環境破壊などを規制する「環境保全条例」を制定し、環境の維持・保全が図られています。



沿道に咲くコスモス

庄内地域の人口と就業者の推移



資料: 国勢調査(※2005年は合併のためデータなし)、農業センサス

2. 良好な山岳景観



■ 状況

○ 良好な山岳景観が維持・保全される庄内地域

- ・庄内地域は、北部に城ヶ岳、雨乞岳などの山々が連なり、南西部には、原生林の広がる黒岳や花牟礼山など1000mを超える山々が連なっています。
- ・黒岳周辺は阿蘇くじゅう国立公園区域に指定されており、南東部の烏帽子岳を中心とした山々も神角寺芹川県立自然公園区域に指定されるなど、良好な山岳景観が維持・保全されています。
- ・また、庄内地域の山間部の多くが、保安林としても位置づけられており、豊かな自然環境が保全されています。

○ 黒岳の原生林、男池をはじめ、点在する豊富な湧水池の保全の取り組み

- ・庄内地域南西部の黒岳の麓には、阿蘇野川の源流となる男池湧水群があり、自然豊かな原生林が残されています。
- ・男池湧水群では、清掃協力を徴収し、保全活動が行われています。
- ・地域全域に点在する湧水は、古くから生活用水として利用されており、利用する人たちによって保全されているところも多く見られます。

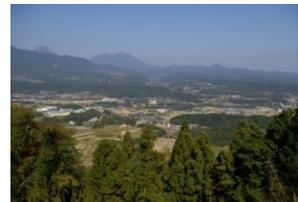
■ 課題

○ 山岳景観の維持・保全

- ・庄内地域では、良好な山岳景観が維持・保全されていることから、今後も継続していく必要があります。

○ 景観の認知度の向上

- ・特徴ある湧水の景観などは、まだあまり知られていない状況であることから、認知度を高める取り組みが必要です。



① 庄内地域の眺望

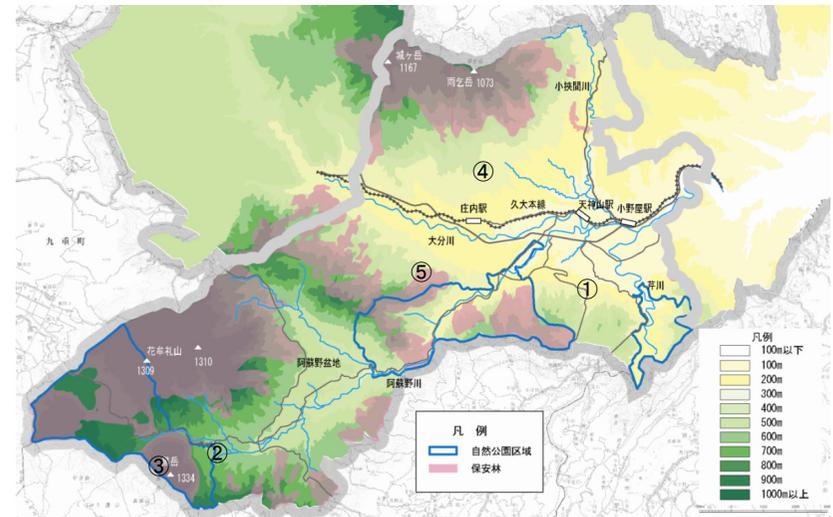


② 紅葉が進む黒岳



③ 男池の湧水

庄内地域の山岳



※図中の番号は写真の番号



④ 諏訪神社の湧水



⑤ 淵神社の湧水

3. 特徴ある中山間地の農地



■ 状況

○中山間地の棚田景観の形成

- ・庄内地域は、600～1000m級の標高の高い山地と深い谷が多い地形となっています。
- ・谷間に形成された小規模な集落とその周辺には広大な棚田の景観が広がっています。

○庄内地域の農業を代表する果樹林の景観

- ・庄内地域北部の山麓には、ナシに代表される果樹林が開拓され、地域を代表する里山の景観が広がっています。
- ・ナシの栽培は、明治・大正時代から100年近い栽培歴があり、庄内地域を代表する農作物になっています。

○中山間部の農地の荒廃が進む

- ・庄内地域の山間部においては、耕作の不便なところで、耕作が行われなくなった農地が生じています。

■ 課題

○農家の高齢化・担い手不足の深刻化

- ・庄内地域では、農業経営環境の悪化によって、農家の高齢化や担い手不足が進んでいます。
- ・耕作の不便な山間地を中心に、耕作放棄も行われており、田園環境の維持・保全が困難な状況が生じています。
- ・今後も田園環境を維持・保全していくために、農地の集約や集落営農など、農業の経営を改善する施策や取り組みが必要になっています。

○都市との連携の必要性

- ・特徴ある棚田の保全については、市民と行政が一体となり、保全を行うしくみを検討していく必要があります。



大津留地区の棚田と由布岳の眺望



山間部の耕作放棄地

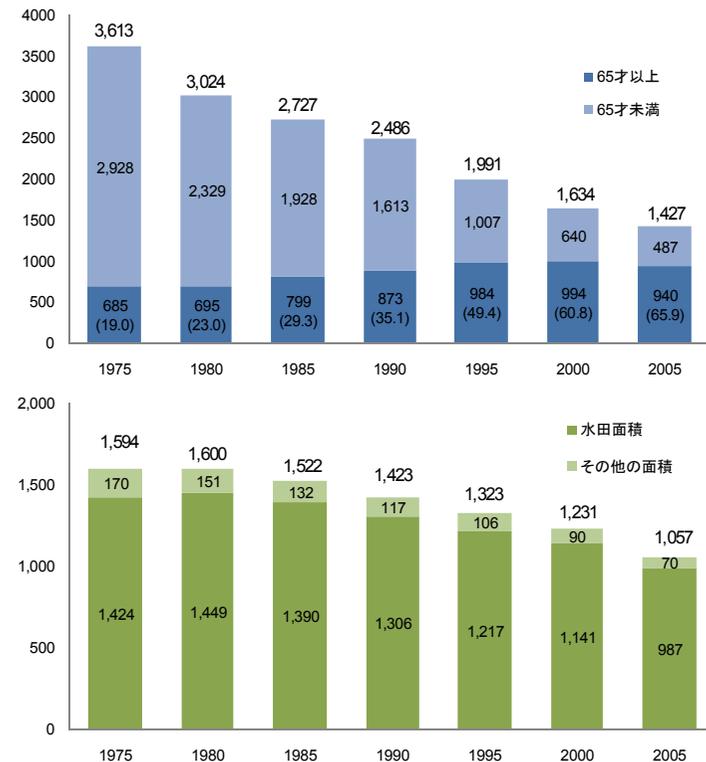


ナシの果樹林の様子



庄内の赤ナシ

庄内地域の農業就業人口と経営耕地面積の推移



資料：農業センサス

4. 沿道の景観形成



■ 状況

○ 山々の連なった景観

- ・ 庄内地域の沿道には、北部の城ヶ岳、雨乞岳や南西部の花傘礼山など山々が連なりが背景として広がっています。

○ 河川が作りだした河岸段丘

- ・ 庄内地域は、南北を山々に挟まれていることから、中心部を東西に流れる大分川に沿って、道路・鉄道といった主要な幹線が並行しています。
- ・ 大分川沿いには、平坦地と傾斜地が交互に繰り返す河岸段丘の景観が広がっています。

○ 山すそに広がる棚田景観

- ・ 河岸段丘や後背地の山すそには、棚田や田園の風景が広がっています。

○ 農村集落の景観

- ・ 庄内地域の駅周辺や公共施設の周辺地域には、森林や田園と一体となった農村集落の景観が広がっています。

○ 河川・ダムの景観

- ・ 主要幹線と並行して流れる大分川では、自然護岸や櫟木ダムなどの景観が見られます。



①沿道からの山岳景観と河岸段丘



②山すそに広がる棚田の眺望

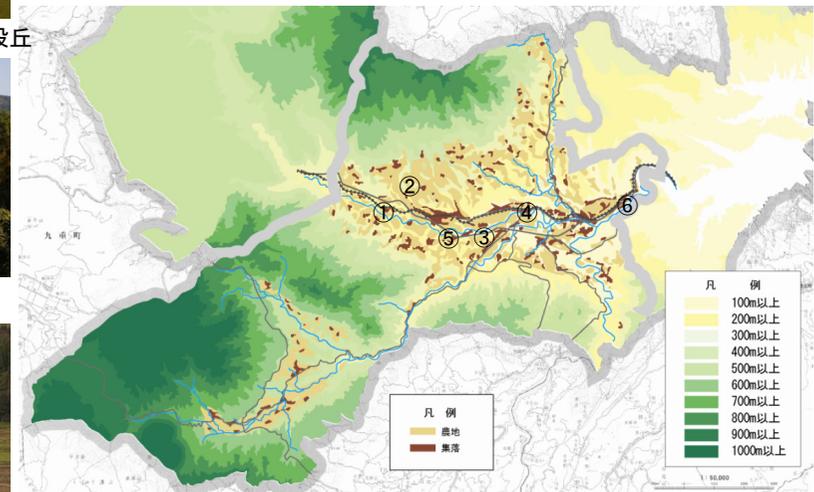


③沿道からの農村集落の様子



④線路沿いの集落の様子

庄内地域の景観構成



※図中の番号は写真の番号



⑤沿道からの大分川の様子



⑥沿道沿いに広がる櫟木ダム



■ 課題

○開発の手続きの必要性

- ・ 挾間地域や湯布院地域では、無秩序な開発を防ぐために、開発の際に近隣関係者との協議が義務づけられています。
- ・ しかし、庄内地域では、そうした手続きは定められていない状況です。
- ・ 庄内地域の年間の建築着工が6～8件程度と少ない状況ですが、無秩序な開発を抑制するためにも、挾間地域と湯布院地域の手続きとの整合性を図る必要があります。

○沿道における景観形成

- ・ 主要幹線道路沿いにおいて、沿道サービス施設の立地が増えており、屋外広告物も増えていることから、良好な沿道景観を形成するため、屋外広告物などのルールづくりが必要です。

庄内地域の開発状況



1971年

2004年

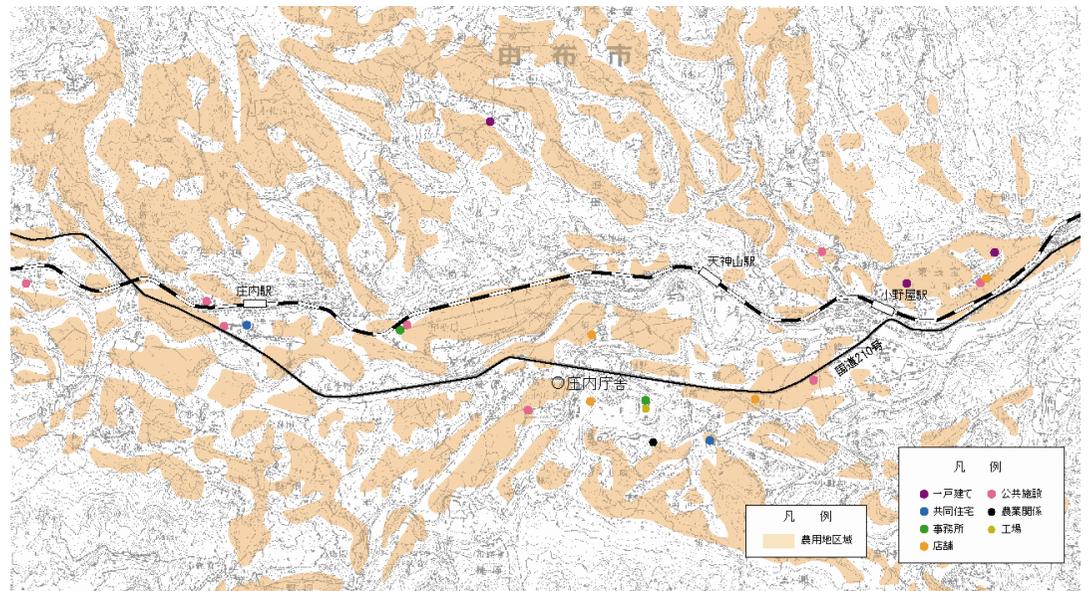


国道210号の沿道サービス施設



沿道の屋外広告物

庄内地域の建築着工の状況(H15～H19.3)



資料: 由布市資料

第6章

庄内地域の 景観まちづくり の方針

1. 良好な山岳景観の維持・保全

■課題

○山岳景観の保全

- ・庄内地域の山間部の多くが、国立公園区域や県立自然公園区域、保安林などに指定されており、良好な山岳景観が維持・保全されています。
- ・一方で、林業の経営環境の悪化から担い手不足が深刻化しています。

■方針

- ・現在行われている施策を継続し、今後も庄内地域の山間部の豊かな自然環境の維持・保全を進めていきます。
- ・庄内地域に点在する湧水を守り続けるためにも、周辺の自然環境の維持・保全に努めていきます。

2. 農地の維持・保全

■課題

○特徴ある中山間地の農地

<農家の高齢化・担い手不足の深刻化>

- ・農業の経営環境の悪化から、農家の高齢化や担い手不足が深刻な状況です。
- ・耕作の不便な山間部においては、耕作放棄された農地も生じています。

<農地の維持・保全に向けた住民協力の必要性>

- ・特徴ある景観を形成する農地を維持・保全するため、住民の協力が必要不可欠になっています。

■方針

<農業施策による農地の維持・保全>

- ・良好な田園環境を維持・保全していくために、農業施策によって農業の振興や担い手の育成を図ります。

<住民との連携による農地の維持・保全>

- ・景観上重要性の高いものについては文化的景観の位置づけを行うなど、認知度の向上に努めます。
- ・また、棚田オーナー制度などにより、住民との連携による農地の維持・保全のしくみづくりを進めていきます。

3. 沿道の景観形成の推進

■課題

○沿道の景観形成

<開発手続きの必要性>

- ・庄内地域では、無秩序な開発を抑制するための、近隣住民との協議の手続きが義務化されていない状況です。

<沿道における景観形成>

- ・商業施設などの立地が進む主要幹線道路沿いで、良好な沿道景観を形成するために、屋外広告物への対応が必要になっています。

■方針

<開発手続きの整合性>

- ・庄内地域においても、無秩序な開発を抑制するため、挾間地域と湯布院地域の手続きとの整合性を図ります。

<屋外広告物への対応>

- ・主要幹線沿いは、庄内地域の実情に即した屋外広告物の基準づくりを進めていきます。

4. 景観づくり啓発活動の推進

■課題

○景観づくりの取り組みへの理解

<住民参加の景観づくりの必要性>

- ・農林業の生業によって維持されてきた自然環境や田園の景観は、高齢化の進展、担い手不足などによって、今後の維持・保全が困難な状況にあり、住民の協力が不可欠な状況です。
- ・しかし、まだまだその重要性・必要性が住民には十分に認知されていない状況です。
- ・また、市民が景観まちづくりに関わりを持つための場は、まだまだ少ない状況です。

■方針

<景観の評価・認知度を高める活動>

- ・庄内地域において住民の景観への関心を高めるため、景観百選などによって、峡谷や湧水などの景観に関する評価や認知度を高める活動を進めていきます。
- ・子どもの頃から景観への興味・関心を高めるため、景観教育の取り組みを推進していきます。
- ・地域の農林業や畜産業の生業の大切さや故郷への愛着をはぐくむため、地産地消や食育の取り組みを推進していきます。

<良好な景観づくりの活動支援>

- ・庄内地域にある貴重な棚田景観の価値を伝え、守っていくため、棚田オーナー制度など、農業政策と連携した活動を支援していきます。
- ・主要幹線および集落内道路の沿道に潤いを与えるため、地域住民の植栽活動など、景観づくり活動を支援していきます。
- ・市民と行政が一体となり、景観づくりの機運を高めるとともに、景観計画区域への指定などについて関係者と協議しながら検討していきます。

